

## がん教育推進自治体視察レポート

### 「自分や家族ががんになったら、どうしたらしいのかな？」 ～朝霧診療所・自分カルテ～

#### 1. 概要

場所	石川県金沢市立朝霧台小学校 6年1組教室
日時	令和7年11月17日（月）13:40～14:25 <5時間目>
対象学年・人数	小学6年生 31名
教科・単元名	体育科(保健領域) 病気の予防 ～朝霧診療所・自分カルテ～
授業者	佐藤 信幸 教諭
外部講師	石川県がん安心生活サポートハウス がんサロンつどい場 はなうめ 荒能 里美 氏
選定理由	看護師の経験を持つ教員が、児童が単元を通して自分事として考え、心や体の両面から適切な行動をとれるようになることをねらいとし、自分カルテ(ひとり一人が学んだことを整理し、まとめを行うカルテ)の作成を行う手法が他の自治体の参考となると考えたため。

#### 2. 授業内容

##### ＜授業のねらい＞

講師の話を聞くことで、自分や家族ががんになったらどのように治療したり、社会生活を送ったりすれば良いのか自分事として解決に向けた取組や方法を考えることができる機会とする。

##### ＜授業の流れ＞

・導入（5分） ・質問内容の検討（10分） ・外部講師 講話（20分） ・まとめ ふり返り (10分)	外部講師：がんサロンつどい場 はなうめ 荒能 里美 氏 授業進行：佐藤 信幸 教諭  課題＜自分や家族ががんになったら、どうしたらしいのかな？＞  ●内容 ・佐藤教諭による事前学習内容振り返り ・外部講師紹介 ・荒能氏へ質問を考え、質問（グループワーク） ・荒能氏による回答と講話 ・荒能氏の講話を受け、さらなる質疑応答 ・グループで分かったことを確認し、発表する ・荒能氏からのメッセージ	 
---	--	--

※授業後に関係者で振り返り会実施

### ＜グループ活動の内容、ICTの活用状況等＞

病気の予防や治療についての探究活動の活発化を目的に、ICTツール「オクリンクプラス」を使用。児童一人一人がノートパソコンを用いて個別に調べ、分かったことの共有や話し合いを深めるなど、チームとしてのカンファレンスを繰り返す中で得た学びを「自分カルテ」に整理する手法を用いていた。



### ＜外部講師活用授業の詳細＞

#### ① 単元「病気の予防」～朝霧診療所・自分カルテへの授業構成（全9時間）

がんは誰もがなる可能性がある病気であることを知り、自分や家族ががんにならざるを得ないか、どんな行動をとるかについて考える全7時間の事前授業、外部講師講話としての1時間の本時の授業、これまでの学びを統合して考える1時間の事後授業で構成。

- ・病気の種類や原因、病気にかかると困ること、これから的生活に活かすために本単元で学びたいことを考える（1時間）
- ・感染症の原因、予防、治療について、虫歯と歯周病について、喫煙・飲酒等によるリスク、がん、心臓病、脳卒中について、薬物乱用のリスク、自分や家族ががんにならざるを得ないかを考える（7時間 ※外部講師講話1時間を含む）
- ・自分や家族を守るためにできることを考える（1時間）

#### ② 本時・外部講師講話（1時間）

##### ・佐藤教諭による導入（事前学習内容の振り返り）、講師紹介

- ・がんは誰もがなる可能性があることを事前学習内容と共に振り返る。
- ・本時は自分や家族が、がんにならざるを得ないかについて考える。

→授業開始時、テーマについて、ほぼ全員が「どうしたらいいかわからない」に挙手をしていた。

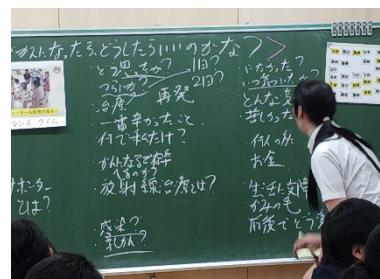
##### ・荒能講師の紹介

がんサロンつどい場 はなうめのピアソポーターとして活動を行う。

##### ・児童から荒能氏への質問をグループで考える

グループで話し合い、質問を考え、グループ順に発表。佐藤教諭が板書しながら質問を整理し、荒能氏に投げかけ、順に答えていく方法で進行した。

- ・「気持ちについて」がんと診断を受けた時、どんな気持ちになったか
- ・「治療について」講師が経験したがんのステージについて（がんの進行度合を示す「ステージ」という言葉を児童が知っていたのは事前授業で履修済であったため）、どんな治療をしたか
- ・「身体的なことについて」痛みがあったか、どんな変化があったか
- ・「日常生活について」治療の費用、ピアソポーターとはどんな仕事か



### ・荒能氏による回答と講話

#### 「気持ちについて」

乳がんと診断された時、それまで元気だっただけにとても驚いた。辛い気持ち、不安な気持ちがあった。また、「がん＝死」という考えがよぎった。その頃、2人の子供が小学6年と小学3年だった。成人していないことで、この先どうなるのか不安もあった。



#### 「治療について」

ステージ2と診断され、手術、放射線、抗がん剤、ホルモン治療を受けた。放射線治療は、治療時間わずか数分のために平日1か月間、毎日通院した。



#### 「身体的なことについて」

痛みは全くなく、胸が張った感じが続いていたため受診した。再発した時は骨に転移していた。眠れないほど痛く、寝返りもできなかった。身体的にも大きな変化があった。手術で乳房を1/3切除、放射線治療の黒ずみ、抗がん剤治療で大量に髪が抜けた。また治療中は食欲不振や食べても吐いてしまうことが続き、7～8kgくらい体重が減った。

#### 「日常生活について」

- ・いろんな方々にお世話になった。医師、看護師等の医療関係者、また家族にも支えられた。手術した影響で、左手にあまり負荷をかけられなかったこともあり、家族が家事を率先してやってくれて、大変有難かった。
- ・費用については、現在の制度とは違い、放射線治療の場合、大体1回5,000円かかった。平日毎日1か月通い、積み上げるとかなりの負担。抗がん剤も価格が高い。保険制度により、後から一部の費用は戻ってくるが、はじめは全額患者が支払わなければならないので大変。
- ・ピアソポーターとは、がんになった経験がある人や家族が学校の授業をはじめ、健康に関する様々な場に出向き、講話や対話等、運営をサポートする人たちのこと。

### ・荒能氏の講話を受け、さらなる質疑応答

#### 「抜けてしまった髪の毛は、また生えてくるのか」

→自分もとても心配だったが、生えてきた。生えるまでは、外出の際だけウィッグを使った。締め付けが強く、痛いので、家では帽子を被って過ごした。



#### 「具体的にどのような痛みであったか」

→骨のがんは神経が痛むという感じの痛みで立っていられないほど。眠ることも辛かった。  
→長時間硬い椅子に座ることができず、ゲルクッションを職場、車、自宅と様々な場所で使用している。旅行も行くことができ、とても助かっている。

#### 「がんになったことを家族等に伝えるとき、どのように伝えたか」

→がんが見つかってから手術までに時間がなく、自身は不安や恐怖がある中で話したが、家族はいつもと変わらない様子で聞いてくれた。

「がんと一緒に過ごすというのは不安ではないか？」

→今もがんが残っているが検査結果で進行はしていないことが分かっている。今は一緒に住んでいるという感じ。不安になる時はもちろんあるが、あえて楽しいことを考えるようになり、不安にならないようにしている。

「仕事や活動に制限はあるか」

→重いものを持たない、運動時は見守りに回る等の制限をしている。職場の中で、自分にできること、できないことを伝え、理解してもらっている。

「がんによって、将来の夢への影響はあったか」

→先生と呼ばれる人になりたかったが、子どもが大きくなつてから、と考えていた。

しかし、がんをきっかけに「全部やろう」と思い、料理教室をメインに様々な教室を開催し、現在は、精神疾患を持つ方への就労支援を行つてゐる。

・荒能氏の講話を受け、自分が気を付けようと思ったことをグループで話し合う

- ・もし家族ががんになつたら、理解をして接したいと思った。
- ・誰がいつがんになつてもおかしくないので、覚悟を決めておこうと思った。
- ・早期発見ができるように、少しでも体に変化を感じたら病院に行こうと思った。
- ・定期的に病院に行くこと。がんになったとしても、良いきっかけをつかみたいと思った。

・荒能氏からのメッセージ

がんについて、最初は怖いと思っていたかもしれないが、実は身近な病気。自分や自分の周りの人がなるかもしれない。その時に自分はどうしたら良いか、今日の授業がきっかけで考える機会になればと思う。

**③ 事後学習（教諭指導）**

学びを整理するとともに、学びの内容をポートフォリオにまとめて見返すことができるようになる「自分カルテ」への記載を実施。（ICTツール「オクリンクプラス」を活用）

**<自分カルテ（児童の記載内容一部抜粋）>**

・今日の学習で分かったこと

- ・いつ、がんになるか分からぬということは知っていたけど、話を聞いてすごく深く感心したし、「気持ち」や「身体的」なことについて新たに学んだことが増えた。
- ・がんは痛みがあるものとないものがあるから、痛みのひどさは分からぬが、落ち着いて行動する事も大事だと分かった。

・自分の生活に生かしていきたいこと

- ・がんになると周りから理解がなかつた時にいじめの原因にもなるだろから、理解のある人間になりたい。
- ・自分ががんになつたら、まずがんになったことを家族に伝えて、マイナスなことだけ考えるのではなく、プラスのことも考えたりして後悔がないようにしたい。

### 3. 児童生徒の様子

#### ＜学習への意欲や発言の様子（発言内容）等＞

質疑応答が途絶えることなく、積極的に発言をしていた。  
ICT ツールを効果的に活用し、調べ学習やカンファレンスを行いながら、主体性を育む事前学習の成果によるところも大きいと感じられた。また講師の話に対して、相槌を打つ、言葉に出してリアクションを行う等、一方的に聞くだけではないコミュニケーションが生まれていた。



### 4. 授業を行うまでの外部講師とのマッチングや調整の流れ

#### ・外部講師を派遣するまでの流れ（協議会の開催、名簿や派遣窓口の活用、等）

以下、石川県教育委員会が実施

2月 推進校選定のため、教育事務所に打診（4月に決定）

5月 推進校を訪問し、事業の流れを説明、学校全体での事業協力を依頼

6月 推進校が希望する外部講師の調査をし、外部講師へ打診

7月 外部講師決定

#### ・外部講師との事前調整の方法、回数、要した時間 等

10月 事前打合せを実施

教諭より講師へ、事前学習で行った内容・自分カルテをデータで共有し、実施までに密に連携

### 5. 振り返り会内容

石川県教育委員会が主導し、教育委員会・教諭・講師で意見交換

#### ・授業実施者より

##### ・佐藤教諭

単元として長く実施してきたこれまでの授業を生かした質問を考える等、話を聞くだけで終わらず、自分事にしてほしいという思いで授業を行った。

##### ・荒能氏

本時までに、佐藤教諭から授業の内容や児童の意見の共有があり、児童がどういう思いで本時を迎えていたか、なんとなくイメージがついていた。怖いという気持ちにさせたらどうしようと思っていたが、事前の知識がしっかりとあり、心配がなかったので良かった。自分の中の生きていく術の1つ、血肉となるような授業だと感じた。

#### ・授業参観者より

・より自分事とするために「痛みはどのくらいだったのか」の質問をした際、例えば「自分にとって痛いのは嫌だから」等、その質問をした理由を問う、述べることができると良い。

・小学生が、がんをいかに自分事にするかという点で、佐藤教諭が今日だけでなく、それまでの単元の授業での積み重ねや「自分カルテ」等の工夫があったからこそ、ここまで考えられるようになったのだと思う。児童が6年生の感性で考えたことを言葉にし、発信できていた。